

各水試発
トピックス

キツネメバル種苗生産 マニュアルを公開します。

道総研栽培水産試験場栽培技術部では、平成16年から種苗生産・放流による日本海域におけるキツネメバル資源造成に向けた研究を行ってきました。本研究がいったん区切りとなったこの機に、これまでの種苗生産試験の結果をもとに、体長40 mm程度の種苗を安定して生産する手法を種苗生産マニュアルとしてとりまとめましたので、Web上に公開します。

キツネメバルはスズキ目メバル科の魚で、北海道では「まぞい」の名で親しまれる魚であり、ソイ類の中では最も高値で取引される魚種です。北海道では主に後志、檜山海域などの日本海で多く漁獲され、太平洋側ではほとんど漁獲されません。

キツネメバルをはじめとしたソイの仲間の多くは、卵を海中に産むのではなく、母親がお腹から直接小さな仔魚を出産する「卵胎生」という他の魚と異なる繁殖形態をとります。種苗生産マニュアルでは、親魚の採集から管理、産まれた仔魚を回収、収容して育てていくための方法とポイントをわかりやすくまとめてあります。

また、これまでの標識放流や遺伝子解析を用いた放流効果調査の結果からキツネメバルの種苗は放流地域周辺への定着率が非常に高いことが分かっています。成長は遅いものの、寿命は非常に長く、標識を付けて放流された魚が10年以上たった後に漁獲されることがあります。

種苗生産・放流コストや回収率についてはまだまだ知見不足の部分がありますが、キツネメバルは海産魚の中では、比較的種苗生産しやすく、ま

た年数はかかりますが種苗放流によって資源造成につながる可能性が高い魚種です。

ご興味をもたれましたら、栽培水産試験場のホームページからアクセスしてください。(https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/saibai/index.html)。キツネメバルの種苗生産、種苗放流をお考えの際は、栽培水試栽培技術部にご相談ください。

(田園大樹 栽培水試栽培技術部)

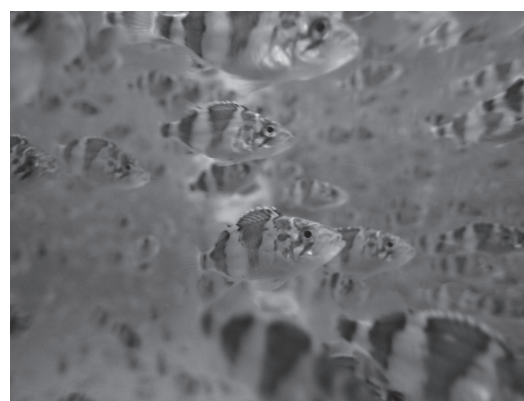
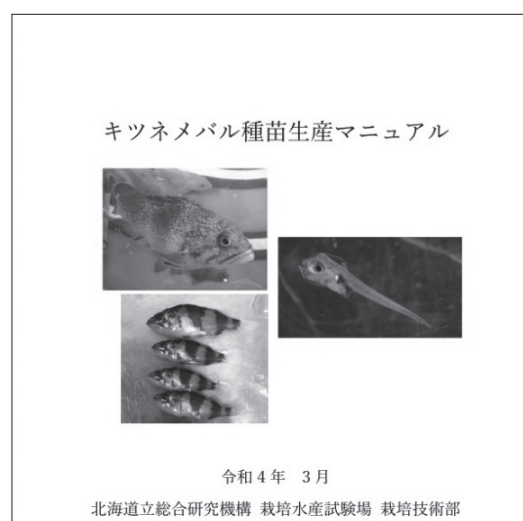


写真 種苗生産マニュアルの表紙（上）と種苗生産されたキツネメバル稚魚（下）